

検体の採取・取り扱い方法

血液

〔採血時間〕 一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。

〔検体採取〕

- 血液 所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
- 血清 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
- 血漿 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、容器の取り扱い方法をご参照ください。
容器の規定採血量より少ない場合、項目によってはデータに影響を及ぼすことがあります。必ず指定容量を採取してください。

〔注意事項〕

- 真空採血にあたり
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず、指定容量を採取してください。
- シリンジ採血にあたり
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
- 溶血を避けるにあたり
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
十分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的的刺激(極度の高温や低温、振動など)を避けてください。

尿

〔部分尿〕

採尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。

採尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および容器の取り扱い方法をご参照ください。

〔24時間蓄尿〕

蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。

蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ指定の保存条件にてご提出ください。

○酸性蓄尿

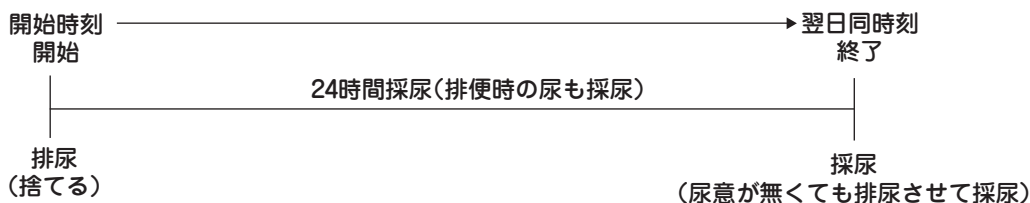
検査項目により、防腐・安定化などを目的に弊社では、下記の蓄尿時に尿を酸性化する方法を採用しております。ただし、これらの方法にて酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、ご依頼いただく各検査項目の備考を必ずご参照ください。

1.防腐剤を使用する方法

蓄尿量にかかわらず、専用防腐剤(錠剤と顆粒)全てを蓄尿容器に入れて蓄尿します。

2.塩酸を使用する方法

規定量の6Nの塩酸を蓄尿容器に入れて蓄尿します。(添加する詳細な規定量や注意事項は各検査項目の備考をご参照ください。)



専用容器について

各頁掲載の専用容器は当社にて準備してございますので最寄の営業所・営業拠点までお申し付けください。

なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

容器の取り扱い方法

容器形態

A00

貯蔵方法 室温



ポリスピッツ

容器形態

AZZ

酸洗浄済みのポリスピッツ

貯蔵方法 室温

旧容器記号

Z



金属検査

容器形態

検査項目

検体の取り扱い方法

F00

旧容器記号

G2



糞便容器


貯蔵方法
室温


虫卵〔塗抹〕

虫卵〔集卵〕


糞便1.0g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、
冷蔵保存してください。


容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取方法
<p>F80 旧容器記号 d8</p>  <p>内容 保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p>	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	<p>●採取方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。 2.1回だけ差し込み、キャップをしっかり締めます。 3.袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください。 <p>●注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.容器の中の保存液は捨てないでください。 2.便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。採便時の食事制限はありません。
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(1回目)	
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(2回目)	
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕	
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 1回目	
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕 2回目	
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 1回目		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕 2回目		





容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法
<p>PC2 旧容器記号 H2</p>  <p>内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 (25本入りプラスチックケース開封後1ヵ月)</p>	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	<p>採血後、速やかに血漿分離してください。また、採血量は正確にお願いします。</p>
	プロトロンビン時間 (PT)	
	トロンボテスト (TT)	
	フィブリノーゲン (FIB)	
	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ)	

容器の取り扱い方法


容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法	
PF2 旧容器記号 C2 	フッ化Na入り (真空採血量2mL)	グルコース	採血後、よく混和し冷蔵保存してください。
	内 容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	ヘモグロビンA _{1c} (HbA _{1c}) (NGSP)	採血後、よく混和し冷蔵保存してください。

容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法
PK2 旧容器記号 H1 	末梢血液一般検査	左図の容器に採血し、ただちに5回以上軽く転倒混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	白血球数(WBC)	
	赤血球数(RBC)	
	血色素量(Hb)	
	ヘマトクリット値(Ht)	
	EDTA-2K入り (真空採血量2mL)	
	血小板数(PLT)	
	内 容 EDTA-2K 3.8mg 貯蔵方法 室温 有効期間 2年	
	平均赤血球容積(MCV)	
	平均赤血球色素量(MCH)	
	平均赤血球血色素濃度(MCHC)	
	網赤血球(RET)	
	末梢血液像	
末梢血液像6分画		
ABO式血液型		
Rh(D因子)式血液型		

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法
<p>  旧容器記号   2mL用 (PN2)  5mL用 (PN5) </p>	<p> EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL) </p> <p> 内 容 EDTA-2Na 3.0mgまたは 7.5mg </p> <p> 貯蔵方法 室温 有効期間 2年 </p>	<p> ヒト脳性ナトリウム 利尿ペプチド(BNP) </p> <p> 採血後、冷蔵保存にて、6時間以内に血漿分離し、速やかに凍結保存してください。 </p>

容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法
<p> S09 S06 旧容器記号 C1 </p>  <p> 9mL用 (S09) 6mL用 (S06) </p> <p> 分離剤入り (真空採血量 9mL又は6mL) </p> <p> 貯蔵方法 室温 有効期間 1年 </p>	<p> 生化学検査一般 血清学的検査一般 その他 </p>	<p> 左図の容器に検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。遠心器がある場合は、3000rpm10分遠心後冷蔵庫(4℃)に保管して下さい。 </p>

容器形態	検査項目	検体の取り扱い方法
<p> 旧容器記号 G1 </p> <p> 貯蔵方法 室温 </p>  <p> ポリスピッツ </p> <p> 尿容器 キャップの色 : 白色 </p>	<p> 尿一般 尿蛋白定量 尿糖定量 </p>	<p> 採取分注後冷蔵保存してください。 </p>

容器の取り扱い方法